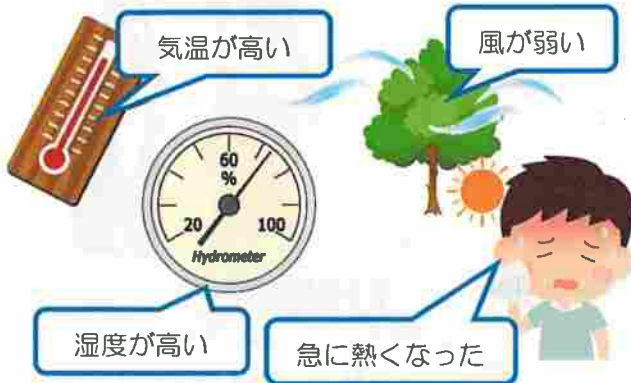




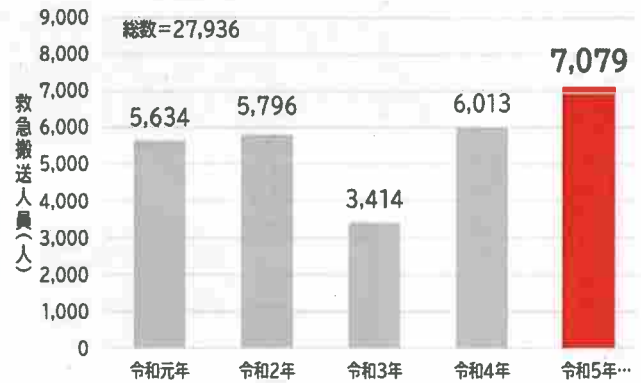
夏季の事故防止



こんな日は熱中症に注意



年別救急搬送人員(熱中症)



1 天候

- ▶ 令和5年の夏の平均気温は北・東・西日本でかなり高くなり、全国の平均気温としては気象庁の統計開始以降最も高くなり、東京都では年間の猛暑日(最高気温が35℃以上)の日数22日、真夏日(最高気温が30℃以上)の日数90日、熱中症警戒アラートが発令された日数26日と、すべて過去最多を記録しました。

2 救急搬送状況

- ▶ 東京消防庁管内において、令和5年6月1日から9月30日までの4か月間に、熱中症(熱中症疑い等を含む)により7,079人が救急搬送されています。令和4年と比べて、救急搬送人員は1066人増加しました。
- ▶ 救急搬送人員の初診時程度をみると、2,573人(36.3%)が入院の必要がある中等症以上と診断され、そのうち199人(2.8%)が重症以上と診断されています。
- ▶ 全体の救急搬送人員のうち3,671人(51.9%)が高齢者(65歳以上)となっており、そのうち、後期高齢者(75歳以上)が2,744人(74.7%)となっています。



対策をとろう!



涼しい服装

日陰を利用
する

日傘・帽子

水分・塩分
補給

- ・無理をせず徐々に体を暑さに慣らしましょう。
- ・室内でも湿度を測りましょう。
- ・体調の悪いときは特に注意しましょう。



熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……、
落ち着いて、状況確かめて対処しましょう。最初の処置が肝心です。

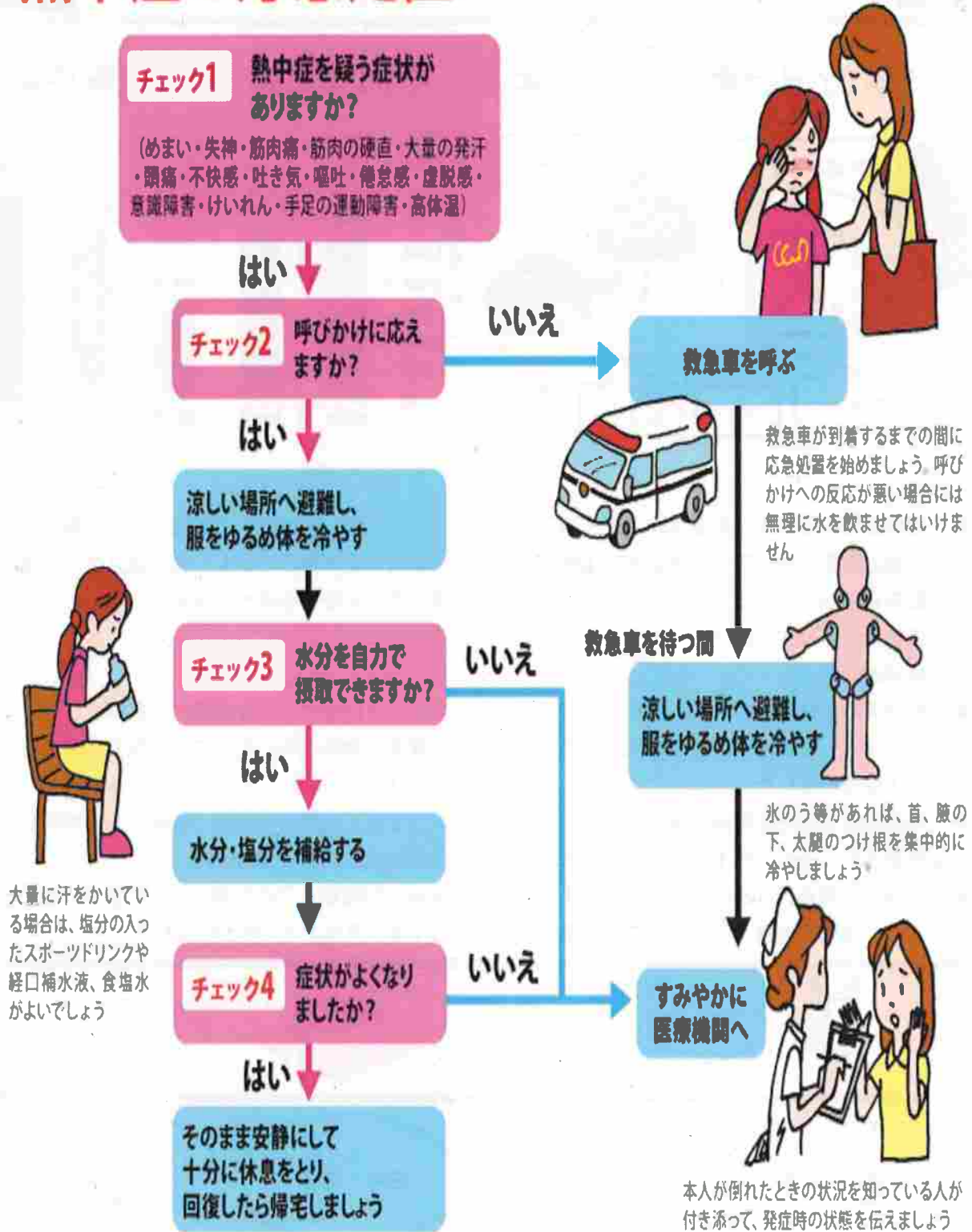
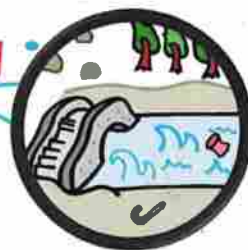


図2-7 熱中症を疑ったときには何をすべきか

※スポーツや激しい作業・労働等によって起きる労作性熱中症の場合は、全身を冷たい水に浸す等の冷却法も有効です。



水の事故防止

川は楽しい場所ですが、危険な部分もたくさんあります。川に入っていないなくても、足を滑らせて転落することもあります。

川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着けていれば防げた可能性があります。

言わば、ライフジャケットは「川のシートベルト」です。



全国の水難事故発生状況（令和5年夏期7月から8月の2か月間）

・発生件数	453件	（前年対比 -6件）
・水難者	568人	（前年対比 -70人）
うち死者・行方不明者	236人	（前年対比 +8人）



水の事故を防ぐために

- 子どもと一緒に水遊びをする際は、目を離さず、大人が必ず付き添いましょう
- 飲酒後や体調不良時には遊泳は行わないようにしましょう
- 気象状況に注意を払い、荒天候や天候不良が予測される場合は、遊泳や川岸等でのレジャーは中止しましょう
- 海や河川では、ライフジャケットを着用するなど、事故を未然に防ぎましょう。
- 急流などの危険な場所には近づかないようにしましょう



【問合せ先】

大 森消防署 03-3766-0119
 蒲 田消防署 03-3735-0119

田 園 調 布消防署 03-3727-0119
 矢 口消防署 03-3758-0119